第2回 大阪狭山市教育振興基本計画策定委員会

日時：令和元年7月10日（水）

午後3時30分 から 午後5時30分

場所：大阪狭山市文化会館

（SAYAKA ホール）大会議室S・L

1 開 会

事務局：それでは、定刻になりましたので、只今から第2回大阪狭山市教育振興基本計画策定委員会を開催いたします。どうぞよろしくお願いいたします。

まず、会議を始める前に、本日の傍聴者の報告と、本日、皆様に配布いたしております資料の確認をさせていただきます。

本日は2名の傍聴者の申し込みがございましたので、ご報告をさせていただきます。資料の確認をいたします。

当日配布の資料

- ・会議次第
- ・資料1（策定委員会委員名簿）
- ・資料2（第3回策定委員会日程調整票及び返信用封筒）

事前配布の資料

- ・事前配布資料1（大阪狭山市の教育や生涯学習に関する市民アンケート及び大阪狭山市教育委員会教職員用アンケート調査結果報告書（案））
- ・事前配布資料2－1（次期大阪狭山市教育振興基本計画（令和2～6年度）体系・骨子（案））
- ・事前配布資料2－2（事業実績一覧表）

以上、6点の資料がお揃いでしょうか。

2 新任委員紹介

事務局：次第2の新任委員紹介ということで、第1回策定委員会の開催後、新たに委嘱させていただきました委員の方について、ご紹介をさせていただきます。資料1の策定委員会委員名簿をご覧ください。

大阪狭山市立幼稚園PTA代表の役員交代に伴いまして、新たに室谷絵美委員に委嘱させていただきました。委嘱期間は、前任の吉田梢委員の残任期間となっております。なお、本日は欠席のご連絡をいただいておりますことをご報告いたします。大阪狭山市立小学校の校長代表にも交代があり、新たに北中規夫南第二小学校校長に委嘱させていただきました。委嘱期間は、先ほどと同様に前任の小林俊江委員の残任期間となっております。

皆様どうぞよろしくお願いいたします。

3 議 事

事務局：次第の3の議事に移りたいと思います。議事進行につきましては、委員長にお願いいたします。

委員長：（あいさつ）

（1）大阪狭山市の教育や生涯学習に関する市民アンケート及び大阪狭山市教育委員会教職員用アンケート調査結果の報告について

事務局：議事（1）大阪狭山市の教育や生涯学習に関する市民アンケート及び大阪狭山市教育委員会教職員用アンケート調査結果の報告について、事務局より説明をお願いいたします。

事務局：事前配布資料1「大阪狭山市の教育や生涯学習に関する市民アンケート及び大阪狭山市教育委員会教職員用アンケート調査結果報告書（案）」をご覧ください。着席にてご説明させていただきます。

調査の概要について、結果報告書（案）の1ページをご覧ください。調査の目的等については、第1回の策定委員会にて、委員の皆様にご承認いただきました通り、16歳以上の市民と市内の学校園の教職員を対象として、現教育振興基本計画の策定時から経年による市民の教育に関する考え方や意見にどのような変化が生じているか、また、日ごろ、子どもたちと身近に接している教職員が、現在の子どもの状況と学校教育の在り方について、どのように感じているか等を把握し、比較検討することで、次期教育振興基本計画の策定及び今後の教育施策の基礎資料とすることを目的として実施したものでございます。

次に、アンケートの回収状況でございますが、市民アンケートでは調査対象2,000人に対し、有効回答率が33.9%でございました。また、教職員アンケートについては、保育所・幼稚園・認定こども園の教職員212人に対し90.6%、小・中学校教職員321人に対し75.7%という回収状況でございました。

次に2ページをご覧ください。基本的な調査結果の表示方法を記載しておりますが、各調査結果のページでは、平成25年度に実施した同アンケート調査の結果と対比できるようにしており、現教育振興基本計画の策定時から経年による市民の考え方や意見にどのような変化が生じているかを把握しやすいようにしております。また、年代別の傾向や回答の相互関係を明らかにするため一部の設問においてクロス集計を行っております。なお、調査結果については、基本的に図表にて表示しておりますが、グラフ以外の表については、最も高い割合のものについて網掛け表示しております。

続いて、調査結果の概要でございます。市民アンケートの結果につきましては、3ページから5ページに調査結果のまとめを掲載しております。6ページから9ページは、回答者属性の結果になっております。また、属性以外の設問に関する調査結果

については、10 ページから 73 ページまでとなっております。

次に、教職員アンケートの結果でございますが、74 ページ及び 75 ページが回答者属性となっております。属性以外の設問に関する調査結果については 76 ページから 90 ページまでとなっております。

次に、91 ページから 93 ページについては共通調査として、市民調査と教職員調査の同様設問について、両者の意識等に対する乖離の有無を把握するためクロス集計のうえ結果をまとめております。94 ページから 97 ページには、アンケートの自由意見として回答者にご記入いただいた結果をまとめております。

最後に、98 ページ以降は、今回実施しましたアンケート調査票の様式となっております。

続いて、本アンケート調査から見えてきた傾向等を設問の大項目ごとに説明させていただきます。まず、10 ページの問 8 をご覧ください。大阪狭山市の就学前教育・保育、学校教育における現在の取組みについての設問です。12 ページの平成 25 年度調査時と比較しますと、ほぼすべての項目において「充実している」または、「取組みの効果が得られている」といったプラス傾向の回答割合が増加しております。一方で、18 ページの問 11「大阪狭山市の子どもたちの教育について、何が課題と思うか」という質問で、「子どもたちの道徳心や規範意識などの低下」、「子どもたちの問題行動やいじめ・不登校」の割合が高くなっていることを踏まえすと、今までの学校園運営の取組みは継続しつつ、今後、より一層、道徳心やルールを守る大切さに気づき、自分の気持ちをコントロールする力などを養うことが期待されていると考えられます。

次に、26 ページの問 13 をご覧ください。大阪狭山市の学校教育の中で、力を入れて行う必要があると思う教育施策や教育事業についてたずねた質問では、31 ページの高校生以下の子どもがいる人のみで見ると、「教職員の資質向上を図る」、「子どもたちの学習意欲が高まる授業づくりを工夫する」で、「必要である」と「どちらかといえば必要である」と回答された方の割合が高く、約 9 割となっております。これは、現代社会に対応した英語教育支援事業や ICT 教育などの推進を図るとともに、これらの課題に対応できる教職員の資質向上について、より一層取り組む必要があるのではないかと考えられます。

次に、35 ページの問 15 をご覧ください。家庭教育・地域教育についての項目です。子どもたちを取り巻く環境がこの数年でどのように変化したと思うかをたずねた質問では、「家庭における生活力」、「地域社会での人間関係」、「子どもと高齢者がふれ合う機会」で「減少・希薄・低下」していると回答された方の割合が高いことがわかります。43 ページの問 20 では、このような環境の変化の中で、学校・家庭・地域が相互の連携・協力を深めていくうえで大切なことをたずねています。この質問には、「学校・家庭・地域間の情報交換をスムーズに行うこと」、「家庭や地域社会が、日

常生活におけるしつけなど、積極的に役割を担っていくこと」が大切であると回答された方の割合が高い傾向にあります。

また、42 ページの問 19 では、学校・家庭・地域が相互の連携・協力することによる効果について、「地域で子どもを育てる機運が高まる」、「地域がより活発になる」、「学校の課題の解決に役に立つ」と回答された方の割合が高く、これらの結果から、学校と地域との連携が今後さらに重要になってくると考えられます。

大阪狭山市の生涯学習・文化・スポーツなどについての設問では、57 ページの問 25 や 67 ページの問 30 において、今後、自分から進んで生涯学習・文化・スポーツなどの活動を、「してみたい」また、「社会教育環境が整備されれば学習してみたい」と考えておられる方の割合が高くなっています。市民の生涯学習活動への参画への機運や文化芸術に対する関心は高まっており、より一層、学習機会の充実を図ることが求められていると想定されます。

次に、大阪狭山市への愛着や市の特長・誇りについての設問です。69 ページの問 31 では、大阪狭山市に愛着を「感じる」、「どちらかといえば、感じる」を併せた「愛着を感じる」との回答割合が 8 割を超えており、問 32 の大阪狭山市の特長や誇りをたずねた設問では、「日本最古である狭山池」と回答された方の割合は 5 割を超えております。また、64 ページの問 27 では、大阪狭山市の文化・芸術活動をより充実させていくための取組みについて、平成 25 年度調査と比較しますと、「狭山池など歴史資産の活用」の割合が増加しています。この結果を踏まえると、ふるさとを大切に思う心を育み歴史文化や郷土を愛する心を育むためには、引き続き、歴史や文化を題材とした講演会や講座等を実施していくことが有効的であると考えられます。

教育に関する施策全般に対しては、本アンケート調査結果からのポイントをまとめますと、環境整備として「気軽に学習に取り組める雰囲気づくり」、「子育て家庭への支援」、「放課後などに子どもが遊べる場所づくり」、「地域と学校との更なる連携」、「すべての子どもたちがともに学ぶことができる教育の充実」などが求められ、子どもたちの「やさしさや思いやりなど、豊かな心を育む」ことや「生活習慣の基礎や規範意識」の向上につながる取組み、また、教育現場では「専門性の向上」、「人員配置の充実」、「支援教育事業」、「生徒指導支援事業」、「家庭教育支援事業」の充実を図ることが求められていると考えられます。

以上、アンケート調査結果報告書（案）についての説明とさせていただきます。

委員長：アンケートについての概要説明をいただきました。この説明に対し、ご意見、ご質問等があれば、挙手のうえ、ご発言をお願いいたします。

本日の質疑で、委員の皆様のご意見をうかがい、特に大きな問題がなければ、この報告書を正式なものとする承認をいただきたいと思いますので、ご意見等があればお願いいたします。

一同：（意見なし）

委員長：特にないようですので、この報告書案を正式な報告書として、ご承認いただけますか。

一同：(異議なし)

委員長：ありがとうございます。本報告書は正式な報告書として承認されました。次に進みます。

(2) 次期大阪狭山市教育振興基本計画（令和2～6年度）体系・骨子（案）について

委員長：議事（2）次期大阪狭山市教育振興基本計画の体系・骨子（案）について、事務局より説明をお願いいたします。

事務局：事前配布資料2-1に基づき、ご説明させていただきます。この資料は、次期教育振興基本計画を策定するにあたって、現在までの取組みの成果と課題、今後の方向性をまとめたものでございます。

一番上の資料をご覧ください。体系・骨子案の構成につきまして、簡単にご説明させていただきます。現計画では、「学びあい、つながりあい、未来に輝く人づくり」を基本理念に掲げ、5つの基本方針を定めており、資料の左側から、この基本方針ごとの施策の方向性、現計画期間中の事業実施からみられる課題を整理しております。なお、先ほど議事の1点目にて、ご報告しました市民等アンケート調査結果のポイントとなる部分を、体系・骨子案の中央部分、「市民等アンケート調査結果」欄にまとめ、国の方向性や策定委員会からの意見を踏まえ、次期計画の体系・骨子としてまとめていく形で構成しております。いま、ご覧いただいている資料の右側の「次期計画の体系・骨子（案）」については、先般、5月31日に内部組織のメンバーで構成します教育振興基本計画検討委員会で議論、協議した結果をもって、事務局案とさせていただきます。

次ページをご覧ください。右上のページ数、1から6ページについては、体系・骨子案を基本方針ごとに整理したものです。左側から、基本方針、基本方針ごとの施策の方向性、基本方針を達成するために現計画の中に行った取組みと、その成果から見えてきた課題の順にまとめました。事業の成果については、事前配布資料2-2で、事業ごとにまとめておりますので、ご確認ください。

続いて、資料右側の「課題と方向性」に、各基本方針に該当する市民等アンケート調査の結果、国の方向性、府の方向性を踏まえ、これらを整理することで見えてきた本市における課題と今後の方向性をまとめたものを事務局案として記載しております。

以上が体系・骨子案の全体的な構成でございます。

続いて、次期計画に向けた基本方針ごとの課題と方向性について、簡単に説明させていただきます。時間の関係上、全ての記載事項についてご説明することは省略させていただきます。ここでは要点のみご説明させていただきます。

まず、資料の1ページ及び2ページ目の基本方針（1）「これからの社会を生き抜く力を養います」についてご説明させていただきます。この基本方針では、教育の出発点である幼児期の教育を重視し、遊びを通じた学びの基礎力や道徳心の育成を重点目標にしているほか、変化の激しい時代を子どもたちがたくましく生き抜くことができるよう、社会の変化に即した新たな学びの展開や支援教育の推進、ICTや外国語教育など現代的課題に対応した教育を推進すること、またそれらの課題に対応できる教職員の資質向上について、6つの重点目標としてまとめました。

課題と方向性としましては、アンケートにおいて特に重要視されている、子どもたちの豊かな心や、物事に自ら取り組もうとする意欲、決まりの必要性に気づき自分の気持ちを調整する力、基本的な生活習慣等を育成することが必要だと思われまます。また、国の方針でもあります「主体的・対話的で深い学びを推進すること」についても、アンケート結果にあるように、子どもの学習意欲が高まる授業づくりの工夫の検討が求められています。

また、2ページの課題と方向性に記載しておりますとおり、アンケートでは、子どもの教育について「子どもたちの道徳心や規範意識などの低下」が課題視されており、子どもたちの規範意識、自尊感情、他者への思いやり、主体的に判断し適切に行動する力などを育むため、深く考え、議論する道徳教育や人権尊重教育の推進が必要と考えます。また、支援を必要とする子どもの増加や多様化により、児童虐待や性的マイノリティ等について取組みの推進も必要と結論づけました。

次に、3ページをご覧ください。基本方針（2）「安全で快適な教育環境を整備します」では、子どもたちの質の高い学びの実現と豊かな育ちを支えるため、専門家など多様な人材と連携し、教育相談体制の充実を図ること、また子どもたちが学校園施設で安心して学べるようにするため、学校園施設などの整備・改修を計画的に進めることなどが重点目標です。課題と方向性としましては、国の方針にありますとおり、「複雑化・多様化する課題に対応しつつ教育の質を保障し、新しい時代の教育を担うための教員を養成するとともに、チームとしての学校を実現するための体制を構築する」ことが必要です。その実現のために、学校では、子どもが抱える課題に対して、組織的な支援を進められるよう校内支援体制の構築を図るとともに、学校だけではなく、保健・医療・福祉等の専門機関と連携しながら一人ひとりの教育的ニーズに応じたきめ細やかな支援を総合的に推進していくことが必要だと結論づけました。

続きまして、4ページ目をご覧ください。基本方針（3）「学校・家庭・地域が連携した教育を推進します」では、子どもたちが学力だけでなく、たくましく、心豊かに生きていくための総合的な力を身につけるために、学校・家庭・地域が一体となって教育に取り組むよう、家庭教育及び地域教育の充実、学校・家庭・地域との連携が重点目標になります。課題と方向性としましては、国の方針と同じく「地域社会との様々な関わりを通じて、これからの時代に必要な力や、地域への愛着や誇りを子ども

たちに育むとともに、地域に信頼される学校づくりを進めるため、学校だけではなく、地域の資源を活用し、地域が学校に関わり子どもの学びや育ちを支えるとともに、学校も地域に関わっていくことが重要である」としています。

またアンケートでは、学校・家庭・地域間の情報交換をスムーズに行うことが重要視されています。地域住民の教育活動への参画の促進、とりわけ地域での教育支援活動の拡充を図り、学校などを拠点とした連携・協力の体制を築き上げていくことや、それに伴い、コミュニティスクールの導入の在り方等も検討する必要があると結論づけました。

5 ページ目をご覧ください。基本方針（４）「生涯にわたるスポーツ・学習活動を支援します」では、誰もが学習活動を通じて自らを高め、豊かな心を育むことができるよう学習機会の充実や環境の整備のほか、スポーツ・文化芸術活動に参加する機会の充実などが目標です。課題と方向性としましては、アンケート調査の「この１年くらいの間に、自分から進んで生涯学習、文化、スポーツなどの活動をしたことがあるか」の質問について、平成 25 年度調査と比較しても、依然「ない」の割合が 65.5% と高くなっていることや、人生 100 年時代を見据え、全ての人が、学び直しなど、生涯を通じて自らの人生を設計し活躍することがアンケートで重要視されていることから、公民館や図書館を活用し、必要な知識・技能の習得、知的・人的ネットワークの構築や健康の保持・増進に資する生涯学習を推進していく必要があると結論づけました。

最後に、6 ページ目の基本方針（５）「郷土愛を育み、歴史文化を振興します」では、狭山池をはじめとする本市の文化財や歴史文化遺産の保存と活用に努めるとともに、市民が文化財などにふれる機会を充実化することで、郷土への誇りやふるさとを大切に思う心を育むことを重点目標として掲げています。課題と方向性としましては、アンケート調査項目のうち、大阪狭山市の特長や誇りとして大事にしていきたいと思うことは、「安全・安心な暮らしやすい生活環境」「日本最古である狭山池」「豊かな自然環境」の割合が高くなっていることから、大阪狭山市の特長や誇りとなっている「日本最古である狭山池」など歴史文化遺産を活かし、郷土を愛する心を育むことが必要であると結論づけました。

以上より、整理した課題に基づき、「次期大阪狭山市教育振興基本計画の体系・骨子案」を提案いたします。

再度、事前配布資料 2-1 をご覧ください。一番右の欄の基本方針について説明させていただきます。

基本方針（１）は現行そのまま、「これからの社会を生き抜く力を養います」とします。

基本方針（２）は、先ほど課題としています「子どもたちの規範意識、自尊感情、他者への思いやり、主体的に判断し適切に行動する力などを育む」ことに対応するた

め、現行の基本方針1-(5)「現代的課題に対応した教育の推進」を基本方針に格上げし、新規で「一人ひとりを大切に作る教育を推進します」としています。

基本方針(3)についても、先ほど課題としています「地域に信頼される学校づくりを進め、学校だけではなく、地域の資源を活用し、地域が学校に関わり子どもの学びや育ちを支える」ため、新規で「持続可能な社会のための教育環境を充実します」とし、現行計画2と3の統合としています。

基本方針(4)は地域のことを学ぶこと、学び続ける生涯学習は、自らのまちに対し愛着をもつことにつながることから、現行4と5の統合とし、新規で「郷土愛を育むとともに、生涯学習を推進します」としています。

以上、かいつまんだ説明となりましたが、議事(2)「次期大阪狭山市教育振興基本計画(令和2~6年度)体系・骨子について」は、以上でございます。

委員長:事務局よりご説明をいただきました。次の会議で、本日いただいたご意見を踏まえ、骨子の最終案をご提示いただくことを考えておりますので、本日はそれに反映できるように、さまざまなご意見をいただきたいと思っております。事務局へのご質問だけでなく、委員同士のディスカッションという形にしたいと思っております。ご協力、よろしく願いいたします。

委員:基本理念と「めざす子ども像」は、今までのものと同じでよろしいですか。

委員長:事務局、いかがですか。

事務局:基本理念と「めざす子ども像」は、現計画で掲げているビジョンになりますので、変えずに継続する形にして、次期計画につなげていきたいと考えております。

委員長:大きなところは変わらないということです。それを土台にして基本計画を考えているというスタンスです。

委員長:審議の進め方ですが、順番に行っていきたいと思っております。

資料2-1では、全体のことがまとめられていますが、この部分について、ご意見ご質問等をお願いします。

委員:1枚目は全体をまとめたものですが、とりあえずは下の1ページからの部分について協議したほうがよいかと思っております。

課題と方向性のところも重要ですが、地域と学校と家庭の連携ということで、特に4ページの右下に「学校と地域住民等が対等な立場で、地域とともにある学校づくりを共通ビジョンとし」という記載があります。本当に地域というものが機能しているのか、今後も機能していくのか、とても不安です。ここに「地域が」と書いて、地域にふってしまっただけで善しとするのであれば、何のために実施するのか意味がわからなくなります。実情をどのように捉えているのか、そして、今後、不安があるとすれば、それを解消するための手立てを教師の立場からどのように考えていくのかを、お聞かせいただきたいと思っております。

委員長:さっそく4ページについてのご意見をいただきましたので、この4ページから協議

を始めます。住民側の問題として、現実はどうなのか、将来的なことを含めて、事務局いかがですか。

委員：追加で申し上げます。私は地区長会の関係もさせていただいておりますが、もう10年もしたら、自治会自体が成り立たないような状況になると思います。現在でも役員のなり手がなく、自治会が潰れるという状況ですが、それでも「地域が」ということになるなら、「地域とは何か」という疑問をもちます。その議論を詰めずに、進むことはできないと思います。

例えば、地域の活性化のために、自治会等が自助努力する部分はあると思いますが、小さい子どものころからの教育というような継続的な視点で、何か手を打たないと、今後、地域が機能しなくなるのではないかと思います。特に、子ども団塊の世代が活動している間はよいかもしれませんが、あと10年もすれば、たぶん成り立たないように思います。安易に「地域が」と使うことへの疑問から、質問させていただきました。

委員長：本質的なご指摘だと思います。府の言葉で言えば「地域コミュニティ」ということですが、それについてのご質問です。事務局、いかがですか。

事務局：ご質問、ご指摘をいただいた部分について、まだ内部で完全に合意がとれているものではありませんが、この資料に「コミュニティスクールの導入」を課題、検討事項ということで記載しています。導入方法については、各自治体それぞれで捉えていると思いますが、本市といたしましては、今のところ、社会教育の分野で社会教育法に基づく地域学校共同活動という部分を上手に活用しながら、学校と社会教育の両輪で活動を深めていくことで、幼少のころからこれからの社会を担う人材というものを育成する取組みができないか、検討したいと考えています。

委員長：いかがでしょうか。

委員：社会教育にもいろいろな段階がありますが、やはり高齢化が進み、難義をしています。結局、繰り返しだと思います。検討されるということですが、実際に機能するとお考えですか。

委員長：事務局、いかがですか。

事務局：ご質問に対し、私も明確な答えをもっているわけではありません。それも含めて、この場で議論していけたらよいと考えています。まさに、本質的なご質問をいただいたと思います。1つ申し上げれることは、このまま、学校教育だけで子どもの教育を進めていくことが困難な時代になってきている現状です。その中で、社会教育という考え方で、地域にどのような働きかけができるかということは、難しい課題ではありますが、そこを抜きにして、この教育振興基本計画を語ることはできないという強い思いはもっています。

答えにはなっていないのですが、学校現場だけでなく、地域への教育、支援、関わりというものを、今後、教育委員会として、また市として、どのように強めていくか

も、この場でご議論いただけるとありがたいと思います。

委員長：ありがとうございます。他にご意見等はございませんか。

委員：私はPTAの役員を約30年間務めておりましたが、「学校、家庭、地域の協力がほしい」ということで、地区長にずっとお願いしていました。「どのようにして地域を巻き込んでいったらよいのか」ということしか頭にありませんでした。今年から地区長になり、今、およそ3か月経ちましたが、「今まで、私たちはとんでもないことを言っていた」とわかりました。地域ではさまざまな課題があり、学校の子どもの教育に関しては、地域の課題として何番目の位置づけになるのかわかりません。高齢化が進み、防災の面での課題もありますので、なかなか子どもの教育まで手が届きません。

私も当初から、初期の基本計画に、コミュニティスクールの導入をぜひ入れていただきたいとお願いしていました。地域でも各地元の学校協議会という、コミュニティスクールの原型になる協議会がありますが、その委員を選出することも、かなり困難なようです。私も、まだ残ってほしいと言われました。区長にも青少年指導員さんの推薦をお願いしましたが、どれも難しいようです。民生、児童委員の推薦も難しいということで、地域が教育に関わることは、地域の教育力を高めていかなければ、充て職で入るだけでは、何も実現しないと思います。

委員長：現場での現状について、お話をいただきました。いろいろなご意見をお願いします。

委員：まず、言葉がたくさん並んでいる中で、現場と、この言葉が結び付いていないと感じます。また、社会教育というものが、もう何年も前から、「地域の人を育てなければならぬ」ということで、ずっと動いておりましたが、循環型の生涯学習のシステムというものが、まったく構築されていない中で、地域に求められることが非常に多くなっています。そして、出てくる人はいつも同じです。私の年代、60歳を前にした年代はまだ働いていますので、実際に動いているのは70歳代、80歳代の方です。この計画を実施されるころには、どのようになっているのか心配です。

教育大学附属池田小学校の事件が起こって以来、学校は開かれていません。開きたくても開けないのか、開きにくいのかはわかりませんが、以前は開かれていたと思います。PTAの役員をしながらも、先生方とのつながりや、地域ともつながっていく感じがして、楽しい学校を体験したと思います。しかし、池田小学校の事件以降、学校は閉ざされていて、簡単には入れません。先生方のアンケート結果の年代を見ると、先生になってから10年以下の方も多くなっています。そこには開かれた学校があったことをご存知ない先生方がおられる中で、地域に入っていく難しさがあります。個人情報の問題もありますし、「言ってよいこと」と「言ってはいけないこと」がある中で、難しさはあると思います。

私は、コミュニティスクールは絶対に必要だと思っています。理由は、学校の先生はとても辛いのではないかと思うからです。このアンケートでも、設問が多すぎて、

それに答えることも大変で、回答率も 70%しかありません。普通の企業だと、上司からアンケートを出すように言われれば、100%回収しなければ提出できないというような状況だと思います。70%の回収率で、細かいことはわかりませんが、絶対に辛いのだと思います。その状況の中で、さらに地域が入ってくることを受け入れられる余裕が先生方にあるのかも疑問に思います。学校教育と社会教育が連携していくことが、現在、どれだけあるのでしょうか。

私は、「表現倶楽部うどい」という中高生の居場所づくりをして、その後、このまちが好きになり、子どもたちが「狭山未来プランナー」という活動を立ち上げて動いているところをサポートしています。あの場所を立ち上げるときには学校教育、公民館と三中が力を合わせていましたが、今は、連携は全くとれていない状況です。学校で「うどい」と聞けば「クラブを休む」と思われるような状況で、本当に必要とされていない気がします。「連携」という言葉が、ここにあるように文章の中に挙がるととても美しいのですが、それがいろいろなところで実現しません。実際、どうなるのかが、私には見えません。

委員長：深い問題で、答えの出る問題ではないと思います。ただ、教育を進めることとコミュニティをつくることは、一体化すべきだと思います。これは、明治時代から日本の施策の考え方です。そのようなことで社会教育というものがあるのです。ですから、どちらが先かという問題ではなく、教育を進めることによって、また一步、コミュニティの活動を盛んにする、相互作用ではないかと思います。

では、4ページについて、特になければ、先に進みます。

では、基本方針(1)「これからの社会を生き抜く力を養います」について、ご意見、ご質問等をお願いします。

委員：市民アンケートの一番上の段、2つ目の○に「あなたは、大阪狭山市の就学前教育・保育、学校教育における現在の取組みについて、『教育相談や子どもの心のケアが充実している』で“そう思わない”の割合が高く、約2割となっています」とありますが、実は肯定している人も2割を超えています。この部分だけを抽出している意図的なものがあるのですか。

事務局：特に意図することはないのですが、ただ、相談やケアの部分は、今後も継続してやっていかなければいけないことですので、そのような意味で記載させていただきました。

委員：課題があるという判断ですね。

事務局：はい、そのようにご理解ください。

委員長：ありがとうございます。

他にご意見等はございませんか。

委員：教育振興基本計画が策定されてから3年経ち、実施事業がいろいろ書かれていますが、継続した事業が結構多いように思います。「計画ができてから新たに事業が実施され

て、このような成果があった」ということはありますか。特に、(2)の「社会の変化に即した新たな学びの展開」ということで、前回も6章のことばかりが「学びの展開」に挙がっていました。主な取組みなので、他にもいろいろなものがあると思います。

委員長：具体的な取組み事例があるかどうか、事務局いかがですか。

私が漏れ聞くところでは、例えばICTについては、かなり力をいれて計画されているということです。

事務局：ICTの関係は、全小中学校でWi-Fi環境が整備済みです。

また、今年度、子どもたちが使用するパソコンについては、今まではノート型のものを、パソコンルームだけで使用していましたが、タブレット型に入れ替え、普通教室や特別教室に移動できるような形にするため、整備を進めています。

新規ではありませんが、施設整備の部分で、従前から計画的に耐震改修等を進めておりますが、新たに空調整備についても、普通教室、そして今年度は特別教室についても、全て実施するというので、取組みをこの計画期間に進めています。

委員長：いかがですか。

委員：ここに「新たな学びの展開」と書いていただいておりますが、3年前に挙がっていた、それまでやっていた計画と同じで、「新たな学び」ではないと思います。ここに、新たなものを挙げていただけるとよいと思います。

委員長：ご意見を踏まえ、ぜひ、素案に反映していただきたいと思います。

事務局：わかりました。

委員長：似たようなご意見、お気づきの点はございませんか。

委員：ハード面、環境整備についてはよくわかりましたが、教育の中身そのもの、例えば、小学校のプログラミング教育が来年から必須になることを踏まえて、いろいろなことをお考えだと思いますので、可能な範囲で教えていただけるとありがたいです。

委員長：事務局、いかがですか。

事務局：小学校におけるプログラミング教育が必須になることも含め、新学習指導要領が小学校で来年度から、中学校で再来年度から実施ということで、市教委事務局としても、各学校でも準備を進めております。

プログラミング教育については、各担当者を、昨年度から定期的に集め研修を実施しています。各学校での実践の取組みの交流等もしながら、全面実施に向け、準備をしています。

プログラミング教育以外についても、今後の全面実施に向け、授業を子どもたちがより主体的に、協同的に学べるような授業改善の取組みが進むように、市としても学校でも、取組みを進めています。

委員長：他にご意見等はございませんか。

「社会の変化に即した」ということであれば、例えば、外国人の方々が日本の社会に

入って来られています。そのようなことも踏まえ、英語教育についてはいかがですか。
事務局：英語教育については、新学習指導要領からは顕著なところでは、3、4年生から外国語活動が本格実施となり、5、6年生からは教科化になるという流れです。本市においては、2年前から先取りする形で、3、4年生にはNPO法人のほうから、日本人ですが外国語指導に長けた方に、毎時間、ゲストティーチャーとして、生きた英語を届けていただいています。5、6年生には、ALTを配置しています。

また、外部のスコア型英語検定を導入しています。この中で「聞く、話す」という部分の測定ができる検定を実施することで、授業改善に役立てようということです。昨年度まで、全中学生に実施しておりましたので、英語力は後退することはありませんので、年々、力が上がっていきます。子どもの自信を育むことと、生きた英語の運用に位置することができるように、授業改善を進めています。

委員長：ありがとうございます。他にご意見等はございませんか。

委員：英語教育ということで、子どもたちと関わりながら、「読書eプラン」にも関わると思うのですが、子どもたちの国語力が非常に低くなっている気がします。朝、本を読む時間があっても「本を読む力」がないような気がします。本が読めないということです。英語の前に国語が重要だと思います。「読書eプラン」で、「1日に50分以上本を読まない子どもが多い」となっているにもかかわらず、今回も具体的にどうしたらよいかという施策があるのでしょうか。「本を読みなさい」と言っているだけでは、読みません。小学校1、2年生の間に、しっかりとした国語力をつけないと、本を読むことすらできません。本が読めないということは、自分の活動の中でわからないこと等を言葉にする力が育たず、コミュニケーション能力も上がってきません。すべての行動の基本が国語力だということで、特に「読む」ということを大事にしなければいけないのですが、結局、今も「聞く、話す」というところのお話をされました。それに関し、前回から「読書eプラン」が挙がっている中で、同じように挙げていますが、では、なぜ「本を読む力」がないのかについて、ご検討されたのか、お伺いしたいと思います。

委員長：事務局のご返答の前に、委員の皆さんからご意見はございませんか。

委員：中学では毎朝10分から15分の読書の時間を設けています。その間は、生徒は本当に静かに本を読み続けています。結果的には国語力が全国の中でも低いという結果がでていきますので、課題ではあると思います。授業を通して、子どもたちが意見を出し合う、話し合いをするというようなことが、大変活発に行えるようになってきています。現在、中学校ではどの学年、どの教科でも、すぐにペアやグループでの話し合いに入ります。そのときに先生方が言われることは、小学校で話し合いにして積み上げがなされているので、中学校でもできるのだということです。教職員の研修に当たるとは思いますが、小中連携というところで、授業づくりをどのようにするのかについて、どの中学校区でも取組みの成果が出てきているのではないかと感じています。

委員長：朝読が基礎になっているということ、さらにグループディスカッションやプレゼンテーション能力の向上したことで、中学校に上がってから実りつつあるという現状です。

国語力は全国的にみて、低いということはないと思います。大阪府の中でも決して悪いほうではありません。ただ、よいということでもありません。重要なご指摘だと思いますので、事務局、いかがですか。

事務局：委員のご指摘にありましたように、「本を読みなさい」と言っても読むようになるわけではないと思います。データに基づいているわけではありませんが、幼少期（就学前）の体験の機会を保障することは、国語力の向上にもつながると思います。遊びや体験を通じて経験したことが好奇心につながり、その先の調べ学習につながりますので、子どもたちの学習意欲の育成につながっていくように感じています。単純に国語力、読書量を上げるための施策を、直接的に取り組むということよりも、いろいろな体験の機会の中で、子どもたちが遊んだり、学んだりする機会をどのように保障するかが重要だと考えています。

委員長：PTAとして、今の議論に関して、何かご意見、ご提案はありませんか。

委員：私自身が本を読まないで、反省させられますが、だから自分の子どもも本を読まないのかと思います。子どもの教育の前に、親の教育がなされていないという状況かもしれません。

委員：二人の息子は本が大好きですが、学校の先生には、上の子は「本を読んで語彙力がついているのに、それを出せない」と言われます。アウトプットできないタイプだということで、先ほどのディスカッションの機会には黙ってしまうということです。下の子どもは、語彙力があるので、昨日の懇談会でも「語彙力があるので、人の意見も聞けるし、発表もできる」「それをまとめて、でている反対意見も取り入れつつ、新しい考え方を提示し、説得する力もある」ということでした。「読書＝語彙力を伸ばす」ということで、そのような読書をする、今後の社会経験にも生かせる力がつくと思います。

委員長：かつてアメリカはセサミストリートという番組をつくりましたが、それは語彙力をつけるということです。

公募委員の方、いかがですか。

委員：本を読むことも大切ですが、「質問をされて、それに答える」という教育がないと思います。いくら、言葉を知っていても発言できない子どもがたくさんいます。スポーツで子どもたちを指導していると、「これ、どう思う」と聞いても、答えられる子どもはほとんどいません。特に高学年になるほど、増えてきます。中学生になると、言葉は知っていても、ほとんど答えません。

今、サッカーの世界では、「問答ゲーム」ということを実施しようとしています。5つほどの質問に何秒で答えられるか、遊びとして取り入れています。それをするこ

とで、頭の回転がよくなり、答えられるようになった子どもは、質問ができるようになります。お互いがキャッチボールできるようになります。

今、学校教育でやっているグループディスカッションは、自分の思いを話すことしかしません。聞かれたことに対して答えるのではなく、一方的に、それぞれが自分の意見を述べるだけです。コミュニケーションになっていないように思います。そのようなことも変わっていかないと、非常に難しいと思います。

委員長：貴重なご意見をいただいたと思います。先生方、ご意見等はございませんか。

委員：保育園では「読書eプラン」の中で、市に本を購入していただき、回していただいています。幼稚園でも同じだと思います。ただ、現場としては、1年交代で次の園に持っていくという形ですが、子どもの前に出すと、1年でページが欠けたり、傷んだりしてしまいますので、やはり本は消耗品という認識です。そのことを考えると、どうしても「使い勝手がわるい」という印象になります。せっかく市で購入していただいた本ですが、「先生がいるときだけ、もって行ってね」という形をとっています。そのようなことを踏まえて、使い方も考えていただき、その事業で補助をしていただけたらありがたいと思います。

保育園にお迎えに来られたお母さんが、子どもが本棚から出してきた本を、丸テーブルで読んであげる光景が日常的に見られますし、紙芝居も近くにおいてありますので、高年齢の子どもがそれをとってきて、お母さんに向けて読んであげるという光景も見られます。環境を整えてあげると、子どもたちが言葉に触れる、字を読む、本を読むという経験ができると思いますので、保育園としては環境を整えてあげたいと考えています。

委員長：ありがとうございます。

時間の都合で、2ページに進みます。基本方針（1）「これからの社会を生き抜く力を養います」という大きなテーマの下で働いていますが、いかがでしょうか。

委員：2ページの「府の方向性、国の方向性、課題と方向性」と書いてありますが、府の方向性が、ここでは課題の方向性に反映されていないように思います。含まれているのかもしれませんが、いかがでしょうか。

また、4の「子どもたちの豊かでたくましい人間性をはぐくみます」というようなことは非常に大事なことだと思いますが、その中の④「体罰等の防止」は、今回の市の課題の方向性のどこに含まれることになるのでしょうか。

委員長：事務局、いかがですか。

委員：なぜ、このようなご質問をしたのかと言えば、先日来、報道で紹介されていたように、警察官の前でいたずらし、それをSNSに流すとか、高校教員に対し挑発行為を行うとかいう行動に対し、どのように対処したらよいのかという思いがあるからです。学校や社会だけでなく、家庭内で親はどのようにしつけをしたらよいのでしょうか。素朴な疑問をもちます。

また、その右側の課題と方向性で「教員一人ひとりに個のニーズに対応した教育内容を浸透させるため教育委員会による体系的な研修、各学校での実践研究、校内研修、専門家派遣を受けてのOJTの充実などが必要」とありますが、「個のニーズ」というものは、とてもいろいろであり、本当にそこまでできるのかと疑問に思います。現在の人材面、資金面から考えても可能なのでしょうか。「書いているだけではないか」と疑ってしまいますが、いかがでしょうか。

委員長：難しいご質問ですが、大学の教職課程においては、「集団の中で個に対応する教育の研究」がずいぶん進み、学生にも教えています。事務局、いかがですか。

事務局：④「体罰等の防止」については、一番上の骨子案の資料をご覧ください。この右端で、「次期計画に向けての体系と骨子」の基本方針と方向性をお示ししていますが、この中の（２）に「一人ひとりを大切にすることを推進します」とあり、１つは「安心、安全な学校生活の確保」、もう１つは「多様性理解の推進」を挙げています。こちらの方向性に、ご指摘いただいた体罰について、いじめについても包括する形で入れております。

今後、これが確定すると、個別の取組み等に関しては、その後につなげていく形になりますので、本日いただいたご意見に基づきつなげていくという形にしたいと考えております。

委員：わかりました。では、そのときにまた議論させていただきます。

委員長：ありがとうございます。大変、難しい問題だと思います。

では、次に３ページに進みます。基本方針（２）「安全で快適な教育環境を整備します」ということで、今の議論にも関係することかと思いますが、ご意見等、お願いします。

委員：３ページの課題と方向性の１つめの○に「課題に教職員のみが対応するのではなく、専門家など多様な人材と連携・分担する体制を整備することで、教職員一人ひとりが専門性を発揮し、教育活動を充実していくことが期待される」と書かれていますが、ここの「専門家」とは、例えば専門教員を職員として採用し、加配するというようなことですか。

委員長：事務局、いかがですか。

事務局：例えば、スクールカウンセラーという心理の専門家を、府で派遣されるのですが、それ以上に、市独自で派遣するとか、社会福祉の専門家であるスクールソーシャルワーカーや弁護士のスクールロイヤーも派遣するというようなことです。学校の教職員以外の専門家を、それぞれの学校に派遣し、教職員と外部の人が一緒になり、問題解決に当たるということ、今後も充実させたいという意味で、ここに挙げています。

委員：スクールロイヤーについては、学校によっては、中学校に弁護士会から派遣された方が来られて、いじめ等に関する講義を行っていると聞きましたが、実際にそのような取組みがされているのですか。

事務局：はい。そのような取組みもしております。警察の方にも来ていただき、非行防止や薬物乱用防止等にも取り組んでいます。例えば、通信会社の方に来ていただき、SNS上のトラブルの解決についての話をうかがったりすることもしています。

委員長：具体的にいろいろな専門家として民間の方が来られたら、そのことだけでなく、子どもたちは進路に関しても、そのような仕事があることも知り、いろいろな意味で体験できますので、貴重なことだと思います。

3ページについて、他にご意見等はございませんか。無いようですので、では5ページをお願いします。

委員：生涯スポーツを考えるとというのは、健康で長生きをするといったことにつながると思います。私は高齢者の取組みをたくさんして、そのようなことをすると元気になって、医療費も浮いてきて、税金もいろいろなところに使えるといったこと、これは大学で研究などもされていますし、そんなことが私はできたらよいと思います。狭山の中にあるスポーツクラブ全部が高齢者のことを絶対やるとか、元気にする、医療費の浮いたお金は子どもたちに使って子どもたちが無料でスポーツができるまちにするとか、そのような仕組みを考えると、まさしく循環型の健康なまちになるといったことがあればよいと思っています。

委員長：貴重なご意見、ありがとうございます。どうでしょうか。この生涯スポーツ、生涯学習、文化芸術活動でご意見はございませんか。

委員：スポーツと文化は、人間として成長するところで両方大事だと思います。スポーツは健康だという目に見えるルールや約束があります。それが守れる、わかるというか、そういうことにも健康だけではなく基盤を置くようなスポーツの振興であってほしいと思います。文化については、日本という国にある独自の文化をできれば子どもたちにわかるように、教育を広げるということも非常に大事だと思います。高校生からでもよいのですが、それをどれくらい実行に移していくのかということでもきちんと考えられるような内容でいけたらよいと思います。普段から思っている希望です。

委員長：今日は全体の骨格というか、骨子について議論していますので、今おっしゃったようなことを事務局のほうで肉づけしていただいて、次に素案として出てくるのかなと期待しております。

委員：主な取組みの中で、「さやりんピック事業」を前から挙げていただいています。これは私がずっとやってきた総合型地域スポーツクラブの事業として、生涯スポーツの推進の意味を込めて始まりました。なかなか地域の方の参加も難しく、どうしてもイベント型がおもしろいということになってしまい、結局サブでつけていた模擬店やお祭りの要素がどんどん膨らんできて、実際のスポーツ推進が薄れてきているということもあります。総合型スポーツクラブのほうですが、それも市民の健康促進のためというかたちでいわれたのですが、そのスタッフも段々高齢化しまして、今高齢者の

健康体操など、そういったもののみになってきています。競技型のスポーツは競技型のスポーツクラブがあるので、どうしても子どもたちはそちらのほうにいつてしまいます。地域でやっいてこうという総合型のほうにはなかなかきてくれないという現状です。

委員：文化を補っていくというところまでの自覚はまったくないのですが、委員長によると大阪狭山市の文化を担っているといっいていただいているので、ありがたいと思っっているのですが、まだ居場所の域を超えていないのが現実かと思っいます。ただ、3月の末に平田オリザさんのお話を聞く機会があり、文化の格差というのもあると教えていただきました。それは、子どもたちの経済格差が他の面でも出てくる中で、文化の格差というところは特に出てきて、そこのところを公共であったり、市であったり、国であったりが、区の文化施設を使っって、すべての子どもたちに演劇を見る機会をつくったりなどしているということです。狭山の中で、狭山としてというより学校単位で多分そのような芸術鑑賞という時間をつくっっておられると思っうのですが、今、小学校、中学校、幼稚園で、どのような芸術鑑賞や芸術に触れる機会があるのか見えていないのでその辺りを教えてください。

委員長：どなたか今の委員のご質問に対してお答えいただけますか。先生方からはございませんか。事務局いかがでしょうか。

事務局：例えば小学校は学校ごとに違っうのですが、学校で劇団を呼んで鑑賞したり、さやま芸術祭のほうに招待を受けて参加したり、そのようなことで学校ごとに工夫して取り組んでいるというかたちになります。

委員：園児が芸術に触れる機会ですが、コンサートなどをやっいていただっいています。学生さんなのですが、年に1回きていただっいています。その場合、保護者の方にもきていただっいて、保護者と園児がともに楽しむということをしております。

委員長：大学生ですね。

委員：小学校のほうですが、主に演劇鑑賞、それから音楽鑑賞、落語、和楽器を使っったものや映画鑑賞があります。学校によってサイクルは違っうのですが、今年が映画鑑賞であれば、次年度は音楽鑑賞、その次の年は演劇といっったかたちで、6年間の間に2回りくらい、演劇を2回りくらい、大体時間は90分というかたちで取り組んでおります。さやま芸術祭にも招待いただっいておりますし、府のほうのニッセイ「こころの劇場」にも申し込んで、全学校はなかなか難しいのですが、6年生が抽選で当たったときには出っしていただっいております。劇団四季の劇ですので、非常に貴重な体験だと思っっております。また、それぞれの学校でクラブ活動の時間などではお茶、書道ということで、狭山に住んでおられる方にきていただっいて教えていただくといいことと思っっております。文化的なことだと大体そのようなかたちだと思っいます。

委員長：今、学校でもいろいろと取り組んでいらっしゃるということでした。できたら狭山という地域をテーマにした文化、芸術活動なども考えていく必要があるかと思っいま

す。「うどい」などで友人のお話がありましたね。狭山にまつわる昔話的なことを基にドラマをつくっていらっしゃいました。いろいろなかたちでふるさと狭山を愛するような文化、芸術活動をつくっていく必要があると思っています。

委員：今、先生がおっしゃっていただいたように、文化面の活動があり、それからそこを卒業した人が大学生になり、未来プランナーとして地域でもリーダー的な役割を果たしていただいています。そういった意味では、自分たちの活動、プラス、狭山池祭りの関連のところでも活躍していただいていますし、それから狭山全体のさやまバルという催しも自分たちでいろいろと開拓したりしてやっています。また、もう1つ感心するのが、ある自治会で放課後の給食をやっています。その給食の一環として、その未来プランナーのメンバーがそこにいき、宿題や勉強を教えるということもやっていると聞いています。そういった意味では、地域でのリーダーを育てていくと、若いうちからそのように携わっていただけるということで、非常に心強いと常々思っております。

委員長：素案の中にリーダーを育てるという大きなキーワードがありますので、入れ込んでいただければと思います。それでは、6ページです。「郷土愛を育み、歴史文化を振興します」ということで、いかがでしょうか。誇れる池があります。また、街道もあると思います。竹内街道や長尾街道なども北のほうにあります。高野街道もあります。そういったものもありますので、歴史的なことをもう少し高めていくことができたらしやべっております。このことを素案に入れてほしいといったご意見はございませんか。地域の歴史や文化についていかがでしょうか。

委員：狭山といえば狭山池ですよね。今、大学もどこかにいってしまいますよね。将来、子どもが狭山にどんな思い出があるのかなと思います。考えると寂しくなります。先ほど地域の存続ができるかとおっしゃっていましたが、それも含めて、ずっと狭山に住んでいらっしゃる方もいると思います。その人たち中心に今の子どもたちに昔のことなどを教える機会があればなと思います。私は他の市からきて、まったく狭山のことを知らないの、そういった勉強の機会をやっていただきたいと思います。

委員：郷土愛ということで、私の地元のことをご紹介したいと思います。うちの地域は古いまちと、新しくこられたまちと混合しております。古い旧地域には江戸時代からのお地蔵さんが町内に4か所あります。それを新しくこられた方に、この地域を見直してもらおうということで、子どもたちとスタンプラリーをして4つのお地蔵さんを見込んでお参りして手を合わせて健康を祈ろうということで行いました。児童祭りも復活しましたし、文化財第1号の観音さまがあるのですが、それにちなんであま祭りも復活しました。地域の子どもたちに集まっていただいて、お年寄りから昔の話をしていただきました。狭山池も地域のものですが、本当に地元に着した歴史を勉強してもらおうということで、子どもたちがここに住んでいてよかったと思えるような地域にしていこうという取組みをしております。

委員長：地元学みたいなものが、そうやって芽生えてきたらよいですね。

委員：狭山池といいますと、皆さん市民であれば知っていると思っておられると思います。

ただ、認識の差、先ほど愛着ということが出ていましたが、どこまで自分のこととして感じているかなというのは、ある意味市内でも北のほうと南のほうと違いがあります。例えば、狭山ニュータウンの人はやはり陶器山が身近で、狭山池は遠いです。また、北のほうの人は陶器山やニュータウンのほうにいったことがないというようなこともあります。そこの部分を埋めていく必要があるのだらうと思います。それから、狭山池を中心にして、いかに大阪狭山市を活性化していくかということで、シンボルとなることを何とかする必要があるということなのですが、なかなかこれも文化財等の関係もあり、保存とそれから活用、そこをうまくバランスをとっていきけるような方向性を示していただきたいと思います。それから、もう1つは先ほども申しましたように、狭山池をいろいろとそこの賑わいづくりをしたうえで、こういうものがある、こんな楽しいことがあるよということをすることによって、ニュータウンなり、あまり関心のない人も一度いつてみようかという人をじっくりと地道に増やしていくような取組みができたらと思っています。

委員：郷土愛のことですが、末永先生の銅像が狭山にありますよね。あれは他の小学校にもあるのでしょうか。東小で見ました。存在の大きな方なので、よその学校にもあるのか、狭山の子どもたちは知っているのかなと思いました。郷土愛ということではいちばん身近かなと思います。

委員長：先人というか、末永先生のような方を顕彰するということですね。そういったことを、末永先生だけではなく、発掘して、こんな人がおられて頑張られたということで顕彰して、みんなでそのことを大事にしていくことはとても大事なことだと思います。四国の愛媛県に新山市というまちがあります。そこは銅山の関係でいろいろな方の銅像が立っていますが、ちゃんと顕彰しています。その方が小学校を卒業したところに銅像をつくったり、あるいは看板のようなものをつくってみたりといろいろやっています。地域で頑張られた先人を顕彰するということ、そしてみんなで頑張ろうということをつくっていくことも大事だと思います。

委員：たまたま孫が東小にいて、聞いてみたら全然そんな人は知らないということでした。せっかくだから、せめて東小だけにしかないのであれば、東小の子どもだけにでもこういう方がいたんだよというくらいはあってもよいと思いました。そういったところから発展していくと浸透するのではないかと思います。

委員長：ありがとうございます。今6ページまでいっていますが、何かございませんか。それでは全体でこんなことがいいかといったことがございましたらお願いします。

委員：全体のところで、先ほどのご説明がありました、「現代的課題に対応した教育の推進」が、そのまま独立して(2)にあるという理解でよいですか。言葉はいつでもよいのですが、キャリア教育の関係でいうと、どこにどう位置づいて、その視点はどの辺り

に展開されるのでしょうか。

事務局：キャリア教育についてのご質問でございますが、事務局案としましては、次期体系骨子の（１）「これからの社会を生き抜く力を養います」の（２）「社会の変化に即した新たな学びの展開」というところの中に入ってくるかたちで、今後取組施策等位置づけていきたいと考えております。

委員：１－（２）ですね。お聞きしたいのは、全体を通して狭山の子どもの未来を考えたときに、これだけ予測不可能ないろいろなことが起こる時代に、やはり仲間と一緒にいろいろな課題に向かって課題解決をしていく力というのは、狭山に限らずこれから求められていくことです。先ほど、言葉の力ということと、コミュニケーションをとるにはそういうものがあるというお話が出ていました。こんな子どもにするためにやはりこんな力がある、だから地域の力があるからという話があり、地域と協働してコミュニティスクールという話もありましたが、その一方で地域がというお話もありました。要は子どもを真ん中に据えて、それから狭山で生きて、狭山を愛して、いろいろなところで活躍する子どももいるでしょうし、狭山に戻って狭山の中で活躍する子どももいるでしょうし、いろいろなパターンがあると思います。それを育てるのにじゃあどうするかということが、いちばんのベースになるのかと思います。コミュニティスクール１つにしても、自治会、地域、コミュニティがかつてのようなかたちでは成り立たないというお話はお伺いしています。そのときに、先ほどもお話がありましたが、１つの新しい地域の紡ぎ直しをする１つのきっかけとして、学校が新しいシステムを入れる、学校が新しいことをするとき、子どもが通っている保護者の方だけではなく、学校に関わりたいけれどきっかけがないという方がたくさんいらっしゃるということも聞いたりします。そういった方の力を借りながら、一緒に学校をつくっていくという、コミュニティスクールでいったらいわば連携ではなく、一緒に学校をつくり責任を持つというシステムだと思っています。そのあり方は、１つの地域のあり方を考えるきっかけになると思います。それからもう１つキーワードは各地域でやっておられる防災です。防災をキーワードに地域と学校というか、１つの機能を防災というキーワードで地域と繋いでいって拠点にしていくということも聞いております。子どもたちが予測不可能な時代を切り開いていく力をどうつけるかということで、いろいろな要素を入れていただきたいと思います。

委員長：貴重なご意見をいただきました。もう２時間近くになりますので、そろそろ思っております。

委員：４ページに「放課後児童会事業」「さやま元気っこ推進事業」という各事業があります。聞くところによると、指導者の確保が非常に難しくなっているということです。当然、政府のほうで待機児童はゼロにするという方針を打ち出した以上、同じように小学校に入っても同じその必要性は当然あるわけで、そういった面では相当以前からやっている内容と比べれば様子が変わってきています。そのような中で、この２つ

の事業は「連携する」とは書いてあるのですが、その連携はどうするのかというところがあります。どうするかというところは、もう少し考え直してもよいのかと思っています。

委員長：ぜひ素案の中で今の回答を含めていただきたいと思います。本日、先生方からいろいろなご意見をいただいたと思いますが、次の教育振興基本計画（令和2～6年度）の分の体系・骨子案に反映していただき、次回その骨子案を見直しの検討、ディスカッションを続けていきたいと思っています。それを踏まえて、次回成案にしたいと思います。よろしくお願い申し上げます。

4 その他・連絡事項

委員長：では議事（3）その他・連絡事項について事務局からお願いいたします。

事務局：連絡事項でございますが、本日、委員の皆様から頂戴しましたご意見等を踏まえまして、8月下旬から9月上旬の間に第3回目の策定委員会を開催し、骨子案の確定を行いたいと思います。また、次回策定委員会では、計画書の素案内容についてもお諮りしていきたいと考えておりますので、よろしくお願い申し上げます。日程調整につきましては、勝手ながら、お手元にお配りしております「日程調整表」にて調整させていただきたいと思いますので、7月19日（金）までにご回答いただきますよう、よろしくお願い申し上げます。説明は以上でございます。

委員長：それでは今ご説明いただきました内容について、ご質問、ご意見はございませんか。日程表の提出の件、よろしくお願い申し上げます。それでは、最後に私のほうからの提案でございますが、次回の会議から計画素案の中身に入っていくという報告でございましたので、今回の策定委員会と同様に議事進行上、議事をスムーズに進めていくという意味で、事前に会議資料をお配りさせていただいて、お目通しいただいて、そのうえでディスカッションをするというつもりで進めていきたいと思っています。先生方、ご意見はございませんか。よろしいでしょうか。

一同：（意見なし）

委員長：ではよろしくお願い申し上げます。日程調整につきましては、今回と同様に策定委員会の開催、次回策定委員会の日程表の提出でもってさせていただきますのでよろしくお願い申し上げます。長時間にわたりまして、いろいろとご意見をいただきありがとうございました。

5 閉会

事務局：長時間にわたり熱心にご議論いただきまして、誠にありがとうございました。本日はこれにて閉会します。どうもありがとうございました。

（閉会）